

アート・アスレチック教育 ニュースレター



東京学芸大学 アート・アスレチック教育センター
CAAEE Center for Applied Arts and Athletics Education

Topics ▶▶▶ HP完成！ //シンポジウム「かがくいひろしの世界と東京学芸大学」 //CAAEE教員日記 //今後の予定

半年かけて構想してきた本センターのホームページが完成し、ようやく公開されました。本センター主催のシンポジウムも開催し、これからCAAEEの活動をより広めていけるよう頑張ります。また、本ニュースレターからCAAEE教員のコラムを掲載しておりますので、どうぞご覧ください。

ホームページが完成しました！



センターHP

本センターのホームページが10月1日に公開されました。トップページには、今後実施するイベントやその報告、お知らせなど発信していきます。また、寄付金の受付も始め、寄付金額に応じ〈謝意〉として本センターの催しにご招待させていただけるようにしました。他にも、センターの概要や活動内容、プロジェクトについてなど、センターの情報が盛りだくさんとなっておりますので、どうぞご覧ください。



QRコード

<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~caaae24/>

シンポジウム 「かがくいひろしの世界と東京学芸大学」

10月30日（水）芸術館ホールにて、シンポジウム「かがくいひろしの世界と東京学芸大学」が開催されました。本シンポジウムでは、本学卒業生である かがくいひろしさんについて、大学の同級生とともに深掘りしました。

パネラー： 谷 ちか（元出版社勤務／デザイナー）
田村 明彦（グラフィックデザイナー）
水島 尚喜（聖心女子大学教授）
本橋 栄（民生委員児童委員）
コーディネーター：新名 佐和子（放課後図工室主宰／デザイナー）
横藪 春（児童発達支援センター勤務／大学院生）
トピックサポーター：梅田 真代（八王子市夢美術館学芸員）
鉄矢 悦朗（東京学芸大学教授）



Photo by Sayaka I.

シンポジウムの様子

本シンポジウムを企画しました、本センター兼任教員の鉄矢悦朗教授（美術分野）にお話を伺いました。

「かがくいひろしの世界展」が2023年6月長野県から全国を巡回している。東京都では八王子市夢美術館（9/14～11/4）で開催された。（今後、福島県と宮崎県で開催予定）加岳井広（1955～2009）は1980年本学美術学科を卒業し、28年間の特別支援学校教員の後、絵本作家となった方である。本シンポジウムは、八王子夢美術館の展示に合わせ開催した。参加者はスタッフ含め約100名。加岳井氏は卒業当時、養護学校設置義務化という議論の中で、目の前にいる子どもたちにとってどうであるかを当事者の視点で考えていたことや、3浪だから彫刻がやりたくて仕方がなかったエピソードなど同級生パネラーだから聞ける話が沢山あった。パネラーとコーディネーター6名が円卓を囲むラウンドテーブル談和型シンポジウムは、360度撮影するミーティングカメラが話者をスクリーンに映し出す性能を使って実現した。ミーティングカメラはこどもの学び困難支援センターにお借りした。投影等技術はNPOこども未来研究所の樋口氏の協力が欠かせなかった。ホール照明は花家研究室に頼った。また、本学附属図書館においても蔵書するかがくいひろし氏の著作をラーニングcommons中央展示棚に並べることができた。協力してくれた皆さんに感謝する。

コラム CAAAE 教員日記

今月から、本センターに関わる教員によるコラムを始めます！
CAAEEの活動における想いや期待など、自由に書き綴っていきます。

金子嘉宏 教授（教育インキュベーション推進機構）

「爺ちゃんも父ちゃんも漁師だし、中学でたら俺も漁師になるんだけど、二次方程式は解けないとだめかな？」

数年前、とある漁村の中学校の校長先生が受けた質問です。たいていの大人は答えに詰まるのではないのでしょうか。「漁業だってスマート化していくから数学はちゃんと理解しておかなきゃダメだよ。」そんな答えを苦し紛れに出すかもしれません。しかし、こう考えた瞬間に「学び」は手段化します。「△△力をつけるために〇〇を学ぶ」ということになります。（別に、これを全否定するつもりはありません。）ただこれでは「コミュニケーション力をつけたいからかくれんぼをする」というのと同じようなものです。手段化した活動はそれ自体の面白さを失いがちです。一方、アートやアスレチックの活動の殆どは自己目的化しています。「〇〇をしたいから〇〇をする。」という活動になっています。

アート・アスレチックの視点から学校教育を見直すということ、私は人材育成化した学校教育、学びが手段化している学校教育への、アート・アスレチックからの反撃だと思っています。本センターの活動を通して学びに面白さを取り戻していきたいと考えています。このことは子どもの学びということだけではなく、100年時代に学び続ける大人にも当てはまります。手段化した学び（リカレント）ではなく、自己目的化した面白い学びを大人になっても続けられる、その一つであるアート・アスレチック文化の活性化の流れを本センターからつくっていけたらと思っています。



金子先生

今後の予定



HIVE棟グランドオープニングイベント

「験祭(あかしさい)～きみの「面白い」は世界を変える?～」

11月17日(日)に、本学HIVE棟において験祭が開催されます。(本イベントは、8月開催予定でしたが、台風接近に伴う悪天候により中止となりましたため、日程を改め実施されます。)

本イベントでは、HIVE棟に設置するステージと周辺のブースを舞台に、音楽あり、トークあり、体験型ワークショップありと、子どもから大人までどなたでも楽しめる内容になっております。どうぞお気軽にお立ち寄りください。



あそぶ・つなぐ・こえる! ～美術+書道展～

アート・アスレチック教育センターの設立を記念し開催する、美術と書道の初の合同展です。本センターのポリシーである「あそぶ」「つなぐ」「こえる」をモチーフとして本学の美術、書道の学生・教員・研究生が制作した作品を展示します。素敵な作品に出会えることはもちろん、「芸術のチカラ」について想いを巡らすことのできる展示にしています。会期は11月29日(金)～12月8日(日)です。詳細はチラシをご覧ください、お気軽にお越しください。

上記のほか、共催イベントとして11月～12月にかけてサッカーフェスティバルや作品展、合唱特別講座やコンサートがございます。詳細はHPをご確認いただき、お気軽にお越しください。また、先日本センターのオープニングセレモニー&柔道家・角田夏実氏講演会を行いました。当日の様子は、次号にてご報告させていただきます。

